



【作物研究の成果】	
鎮圧ローラーを装着した小明渠浅耕播種機による乾燥条件での大豆苗立ち安定	2
水稻種子の低水温浸種で起こる発芽不良の軽減対策	3
畦畔雑草「キシウスズメノヒエ」は平坦部の水田に多く分布する	4
酒造好適米「神の穂」の収穫適期	5
【果樹研究の成果】	
常温貯蔵におけるカンキツ「カラ」のヘタ枯れ軽減法	6
DIV(発育指数)から判断するハウス栽培ナシ「幸水」の加温開始適期	7
【野菜研究の成果】	
内張資材(チューブ式カーテン)利用による促成トマトの省エネ対策	8
【経営研究の成果】	
集落ぐるみのサル追い払いによる農作物被害軽減効果	9
【茶研究の成果】	
点滴灌水を利用した茶園のケナガカブリダニの保護利用	10
【畜産研究の成果】	
和牛雌肥育牛における稲ワラ代替飼料として小麦ワラが利用できる	11
ロール発酵TMRは未発酵TMRに比べてハエの飛来が少ない	12
<トピックス>	
平成20年度に行った学会発表・論文投稿等を紹介します	13



農業情勢と農業研究所の役割

農業研究所 所長 横山 幸徳

皆様には平素より農業研究の推進にご理解、ご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

2008年のアメリカ発の金融危機による世界的な景気後退に伴って、我が国の消費需要は、景気に若干回復の兆候が見えつつあるものの、依然として冷え込んだ状況にあり、農産物価格についても低迷を続けています。さらに、一時より落ち着きを見せてはいますが、暖房用重油や化学肥料等の農業生産資材も高騰状態が続いているなど、農業生産を取り巻く情勢は、これまでになく厳しい状況にあると認識しております。

農業研究所は、こうした厳しい農業情勢に対応するため、各分野において環境に配慮した省エネ技術や地域未利用資源を活かした低コスト生産技術の開発に取り組むとともに、積極的に産地競争

力を増進し、価格安定を図ることを目的に新品種の育成にも力を入れているところです。

さらに、中国等の急速な経済発展にともなって、世界の流通食料を巡る争奪の激化が予測されるようですが、国内自給率を高め、安全かつ安心な食料を安定的に確保していくため、大規模水田での生産技術の開発実証に取り組むとともに、自給率向上に大きな役割を担う中山間地農業の維持のために、獣害対策技術の開発にも行政、普及と連携して進めているところです。

今後も県民の視点に立ち、近未来を予測しながら本県農業を支える技術開発を推進してまいりますので、関係各位のご意見、ご要望を頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。